

## 平成30年度 独創的研究助成費 実績報告書

平成31年3月28日

|         |  |                    |    |             |      |        |
|---------|--|--------------------|----|-------------|------|--------|
| 報告者     | 学科名  | 造形デザイン学科           | 職名 | 准教授         | 氏名   | 真世土 マウ |
| 研究課題    | 日・エクアドル外交関係樹立100周年記念<br>古代アンデス文明の「鳴るボトル」における構造分析及び再現の研究  |                    |    |             |      |        |
| 研究組織    | 氏名   | 所属・職               |    | 専門分野        | 役割分担 |        |
|         | 代表<br>真世土 マウ   | デザイン学部<br>造形デザイン学科 |    | 陶磁器<br>デザイン | 事業実施 |        |
|         | 分担者  |                    |    |             |      |        |
| 研究実績の概要 | <p>古代アンデス文明で作られた多様な工芸品の一つに、器内を流れる空気の圧力で内蔵された笛が鳴るボトル型土器、「笛吹きボトル (Botella Silbadora /Whistling Bottle) 」がある。本プロジェクトでは、BIZEN 中南米美術館の収蔵品を中心にその構造と製作技術を研究している。今回の研究成果では、そうした土器のX線CTによる構造分析、レプリカ制作、そして実際にそれらの土器やレプリカを鳴らす実験結果を示すことができた。本プロジェクトはまた、得られた知見や上記のレプリカ等を利用して博物館での体験展示や教育方法の改善に貢献するとともに、研究成果を岡山県の伝統工芸である備前焼に応用することで学術的成果を現代社会に還元し、文化遺産を活かした地域活性化及び国際交流に寄与している。</p> |                    |    |             |      |        |

※ 次ページに続く

本研究成果に関して、共同研究者である、森下矢須之館長（BIZEN 中南米美術館）以下のとおり書いた。

### 古代アンデス文明の「鳴るボトル」構造分析・再現プロジェクトにおける岡山県立大学の役割と成果

#### 研究実績の概要

聖なる酒チチャが介在することで妙なる音色を出す、古代アンデス文明の「鳴るボトル」。その「鳴るボトル」に関する日本初の学術的研究をスタートしたのは、2018年4月。そうした「鳴るボトル」を数多く収蔵する私ども BIZEN 中南米美術館では、その共同研究メンバーとして、東京大学総合研究博物館・助教の鶴見英成氏と岡山県立大学デザイン学部造形デザイン学科・准教授の真世土マウ氏に協力を依頼した。鶴見氏は我が国のアンデス文明形成期研究のエキスパートであり、氏の所属する博物館には今回の研究には不可欠の最新分析機器があること、真世土マウ氏は陶芸の専門家であり、エクアドルのプレコロンビア土器の製作手法を整理し記録する活動も行っていたことを評価しての依頼であった。研究プロジェクトの目的は、「鳴るボトル」の構造分析と製作技術の解明、さらにその成果に基づいた土器製作を行い、博物館における体験展示に活用して博物館展示・教育法の刷新に貢献すること。さらに伝統工芸である備前焼に応用し、学術的成果の現代社会への還元、文化遺産を活かした地域活性化および国際交流の活発化に寄与することだった。東京大学総合研究博物館で撮影した複数の「鳴るボトル」の精細なX線CTスキャンをもとにした真世土氏による構造分析や製作技術の解明は様々な新発見を伴って貴重なレプリカ制作に結び付き、弊館で昨年秋～今春開催した「さえずる文明展」を通して入館者に古代アンデス文明の新知識を広め、古代の（レプリカ）ボトルを自ら鳴らす体験をしていただくことに大きく寄与した。また真世土の研究成果が地元の伝統工芸、備前焼の作家に提供され、SAEZURI BIZEN という新しい備前焼が創出されたのも特筆すべきことであった。こうした活動は様々なメディアでも広く取り上げられた。研究の中間成果は2018年12月に東京で開催された古代アメリカ学会で真世土先生を通じて学術発表され、その過程で「笛吹きボトル」、「連結笛玉」、「響鳴室」などの新たな学術用語も確立された。その後進展した成果は、本年3月23日～6月30日、東京大学駒場博物館で開催の「文字なき文明の名もなき名工たち 古代アンデス研究の新展開」や同じく弊館で3月30日～10月6日に開催予定の「さえずる文明展 Advance」でも大いに活用されている。ただ、本年度の研究は「笛吹きボトル」の一断面を明らかにしただけに過ぎないとも思われる。今後も研究を継続深化させ、まさに世界の他の文明に例を見ない「さえずる文明」の姿を明らかにし、多くの人々に新たな知識を深め、地元岡山の産業振興にも寄与したい。

#### 成果資料目録

